

脳疾患や治療理解深める

松本秀峰で医療講演会

松本市埋橋2の松本秀峰中等教育学校で18日、医療関係者の講演会が開かれた。医学の道を目指す生徒たちの課

外活動「医学進学プロジェクト」の一環に、4回目の今回は、血管内に管を入れて疾患を治す「カテーテル



脳疾患やカテーテル治療について講演する小山さん

治療」を手掛ける信州大学医学部付属病院の脳血管内治療センター長・小山淳一さんが講演し、希望した1〜5年生約30人が病気や治療について理解を深めた。

法が確立されて歴史が浅く、専門医も少ない現状に触れた。「大事なことは患者さんに後遺症を出さず、安全に手術を行うこと」と症

療の大切さを強調し、「カテーテル治療はこれからさらに進化する。興味があれば目を向けてほしい」と呼び掛けた。
(小岩井貴之)

小山さんは脳卒中について「脳の血管の病気が詰まる「脳梗塞」、脳の動脈が破裂する「脳出血」「くも膜下出血」を例示して、脳梗塞が全体の約75%を占めると紹介した。血管の詰まりを取り除く手術や、非常に小さな金属製の網筒「ステント」を血管内に入れて血管を広げる手法などの映像を見せながら説明した。その上でカテーテル治療について、傷も小さく患者の退院も早い利点を挙げる一方、手